

厚生科学研究費補助金（こども家庭総合研究）
研究協力者報告書

妊産褥婦および乳幼児のメンタルヘルスシステム作りに関する研究

豊田長康 三重大学医学部産科婦人科学講座

研究要旨

産後うつ病ハイリスク妊産婦抽出法の策定のために、モデル施設の一つとして三重大学医学部附属病院において妊娠 8 カ月を経過した妊婦を対象に調査を行う予定にしており、現在その準備中である。今回はその準備状況を報告する。

A. 研究目的

産後うつ病ハイリスク妊産婦抽出法の策定のためにモデル施設の一つとして三重大学医学部附属病院において妊娠 8 カ月を経過した妊婦を対象に調査を行い、妊産婦の精神評価を行い同時にハイリスク妊婦を同定することを目的とする。

B. 研究方法

無作為的、前方視的調査研究のため研究対象妊婦を登録方式として調査する。同意の得られた妊婦に対して、妊娠中、産後 1 カ月、3 カ月、12 カ月に助産婦による面接を行い、DSM- の主要疾患の診断基準に基づいて産後うつ病ハイリスク妊婦を抽出する。また加えて産後 1 週に Stein (1980) の自己記入式マタニティブルーズ評価尺度、およびエジンバラ産後うつ病スケール表：EPDS(COX,1987)と、同時に助産婦は出産や妊産婦の家族の背景などに関する質問紙を配布する。これにより産後うつ病のリスクを同定し、かつ推測予後と転帰予後を比較検討する。

C. 研究準備状況

三重大学医学部附属病院の概要は、病院全体のベット数は 731 床で、産科婦人科全体のベ

ットは 62 床である。平成 9 年より周産母子センターがオープンし、母性棟は 27 床、新生児集中治療室が 20 床ある。妊産婦は主として周産母子センターで診療しているが、平成 10 年度の周産母子センターの平均入院患者数は母性棟および新生児集中治療室合わせて約 50 人/日、分娩数 220 分娩/年で、産科婦人科の平均外来患者数は約 66 人/日であった。当院における分娩の半数以上が母体に疾患の合併や胎児の異常で紹介されたものであった。

まず、研究を遂行するにあたって、助産婦が対象妊産婦に対して正しく面接できるように、面接手技を教育する必要がある。そのために、現在精神症状測定の理論と実際に精通した北村(国立精神神経センター)が三重大学医学部附属病院の助産婦 6 名に調査の指導にあたり、トレーニングを行った。トレーニングの概要について以下に述べる。

平成 10 年 10 月 27 日に実際の面接に入る前の準備について説明した。平成 10 年 11 月 13 日には「妊娠後期妻用」冊子を使って、実際の面接場所を想定した説明を行い、平成 11 年 1 月 11、12 日には DSM- の主要疾患の診断基準(ビデオ使用)について説明した。また、症例練習、練習用紙の記入方法の説明などの指導をした。妊娠中、産後 1 カ月、3 カ月、12 カ

月における面接方法についても同様にトレーニングを行った。Stein (1980) の自己記入式マタニティブルーズ評価尺度、およびエジンバラ産後うつ病スケール表：EPDS(COX,1987)と、出産や妊産婦の家族の背景などに関する質問紙などの意義についても指導を行った。